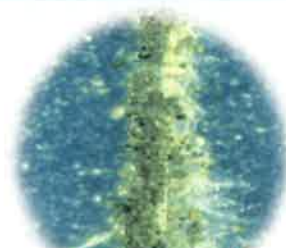


菌が根のまわりで**有機酸**を産生し、
作物の養分吸収を助けます

活根菌

粒剤
水和剤



本菌が根に
共生している様子

有効菌：ペニシリウム・ビライー



特徴と期待できる効果

- 作物を選ばずに、根圏に共生します
 - 有機酸を継続的に産生します
 - 低温下でも活発にはたらきます
 - 抗生物質、殺菌成分を産生しません
- ➡
- 有機酸が作物にとって吸収しにくい不溶性リン酸や微量金属の吸収を助けます。
 - 有機酸により、根の活性が高まります
 - 低温期でも健全な生育を保ちます

製造元



保土谷化学工業株式会社

販売元



保土谷UPL株式会社

使用方法と使用上のポイント

粒剤：ゼオライトに菌を付着させた細粒剤タイプ

元肥時や土寄せ時に10aあたり5~10kg 散粒しすき込む



水和剤：秤量しやすく、水に溶けやすい錠剤タイプ (0.2g/錠)

施用量：1回あたり2~3錠/10a 処理する

散布水量：10aあたり1000ℓ以上灌水

処理方法：活着後に灌水チューブで流し込みや散布機で株元に処理する

効果的な使用法

- ① 2回処理
- ② 散布水量を増やす
- ③ 処理後の散水



散布適期：根の活性、肥料吸収が低下する秋~早春にかけての低温期

対象作物：作物を選びませんが、特に施設園芸作物やユリ科作物に対して有効

使用事例

○粒剤による長ネギの事例

試験場所：埼玉県深谷市

施用区：土寄せ時 7.5kg/10a 散粒

施用日：2014年12月9日

調査日：2015年4月23日

結果：茎部の傷みが軽減



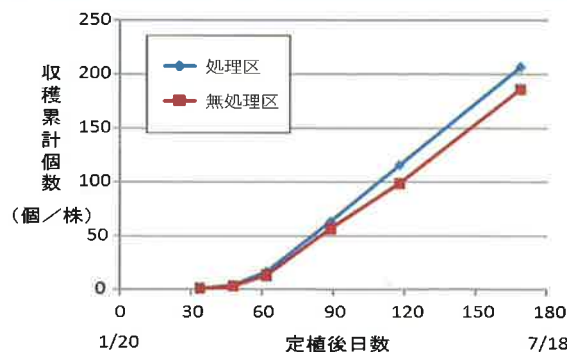
○水和剤によるピーマンの事例

試験場所：茨城県神栖市

施用区：灌水チューブを用い2回施用
2.5錠/10a(2回)

施用日：2016年1月25日、30日

結果：収穫盛期が早まった



注意事項

- 本剤は食べ物でないのので、口に含まないでください。
- 万が一異常を感じられた場合、医療機関を受診してください。
- 保管の際は直射日光を避けて、冷蔵庫もしくは冷暗所に保管してください。また、お子様の手の届かないところに保管してください。
- 本剤は肥料(液肥)ではありませんので、栽培にあたって各作物に適切な肥料を施用してください。
- 本剤は微生物資材なので、本剤を使用する前後1週間は殺菌剤の使用を控えてください。
- 液肥や農薬との併用はお避けください。
- 使用後は薬液タンクや灌水チューブなどに散布液が残らないように洗い流してください。

問い合わせ

販売元



保土谷UPL株式会社

東京都中央区八重洲2丁目4番1号 TEL 03(5299)8213